

令和5年度

常滑市 広島平和学習派遣事業報告書



常滑市教育委員会

目次

常滑市平和都市宣言	1
はじめに	2
令和5年度 常滑市平和学習派遣事業	3
平和学習での様子	6
参加児童報告書	18



常滑市平和都市宣言

世界の恒久平和と安全は、人類共通の願いであり、これからも変わることはありません。しかしながら、世界では今も戦争や無差別テロが起き、生命の尊厳を踏みにじる行為が繰り返されており、世界の平和と人類の生存が深刻な脅威にさらされています。

常滑市は、豊かな自然、伝統文化に育まれ発展してきました。

この郷土を、そして地球を平和で美しいまま後世に引き継ぐことは私たちの務めです。

世界の恒久平和と戦争のない社会の実現、核兵器の廃絶を心から願い、ここに平和都市であることを宣言します。

令和5年8月15日

常滑市長 伊藤 辰矢

はじめに

教育長メッセージ

「百聞は一見に如かず。百見は一考に如かず。……」

常滑市教育委員会
教育長 土方 宗広

「平和」という言葉を知らない人はいないと思います。そして日本人であるならば、平和という言葉から「広島、原爆、8月6日」という言葉を連想する人がほとんどではないでしょうか。

しかし、平和とはどういう意味なのか、どういう状態ならば平和だといえるのかを真剣に考えた人がどれだけいるのでしょうか。

常滑市は、今年8月15日に「平和都市宣言」を行いました。そして、この平和都市宣言の関連事業として、7月28・29日に、小学6年生31名が広島市へ行き平和学習を行う機会を得ることができました。

1日目は、主にガイドさんのお話を聴きながら原爆ドームや慰霊碑を巡ったり、平和記念資料館で生々しい展示品や写真を見た後に、被爆した方から当時の悲惨な状況を聴いたりしました。そのおかげで、戦争の悲惨さ、苦しみや悲しみを実感することができました。

2日目は、戦争にまつわる遺構が数多く点在する^{にのしま}似島へ渡り、日清・日露戦争から原爆が投下された第二次世界大戦後までの歴史について、ガイドさんから聴いたり、ガイドさんに質問したりすることで、平和についてより深く考えることができました。

「百聞は一見に如かず。百見は一考に如かず」ということわざの通り、この報告書には、2日間の平和学習で、小学6年生の皆さんが実話を聞いたり、実物を見たりすることを通して、学んだこと、考えたことが素直に記されています。ぜひ手に取って一読していただければ幸いです。

最後に、平和学習に参加した小学6年生の皆さん、猛暑の中、汗だくになりながらも、ガイドさんの話をよく聴き、詳細にメモを取り、積極的に質問をして自分の考えを深めていく姿は大変立派でした。礼儀正しい言動も数多く見られ、頼もしく思いました。

しかし、「百考は一行に如かず」です。どれだけ考えても実際に行動しなければ意味がありません。平和とはどういう意味なのか、どういう状態ならば平和といえるのかを自分なりに考えを持つだけでなく、これからは平和を維持したり、平和な世界を作り上げたりするために行動できる大人に成長して行ってください。2日間の平和学習が君たちのこれからの人生の礎になることを願います。

令和5年度 常滑市平和学習派遣事業

1 目的

本市が令和5年8月に「常滑市平和都市宣言」を行うことに伴い、原爆が落とされた広島市を児童が訪問することで、平和を大切にする心を育てることを目的に本事業を実施する。

また、広島派遣事業終了後には、常滑市平和都市宣言式に合わせ、代表児童による成果の発表を実施する。

2 内容

(1) 実施日

7月28日（金）～29日（土）＜1泊2日＞

(2) 派遣先

広島県広島市

- ・おりづるタワー
- ・平和記念公園（原爆ドーム、慰霊碑、平和記念資料館、被爆者講話）
- ・似島（第一検疫所棧橋跡、第一検疫所、第二検疫所、第一棧橋跡、慰霊碑等）

(3) 派遣児童

市内小学6年生 31名

学 校 名	児 童 名
三和小学校	榑原そよこ、竹内小百合、平野華凜、増田花
大野小学校	桑山紗和
鬼崎南小学校	竹内万結、石田美月、近藤ひなの、近藤はなの、杉浦心春、伊藤咲世、森蒼太郎、伊藤尊
常滑西小学校	徳永莉子、小川心寧、青木めぐみ、近澤真歩
常滑東小学校	渡邊心鈴、山下莉優、柳野柚衣、平松栞、宮本千暖、高崎蒼真、堀内時希
西浦南小学校	後藤美玲、今檉あずさ
小鈴谷小学校	宮原真矢、鈴木由菜、山本琉生、澤田空舞、森下拓海

(4) 引率者（5名）

所 属	引 率 者
教育委員会 教育長	土方宗広
三和小学校 校長	岩月浩子
三和小学校 校務主任	林健太郎
常滑西小学校養護教諭	近藤佳織
学校教育課 主任	佐竹利規

3 日 程

<第1日> 7月28日 (金)

時刻	行動	内容・備考	
7:00	市役所集合 出発式	【出発式】 1 はじめの言葉 2 岩月校長の話 ・スローガンの確認 3 養護教諭からの話 ・健康チェックと留意事項 4 教育長の話 5 終わりの子渡場 6 諸注意 7 集合写真	
7:15	出発 (バス)		
8:30	名古屋駅着 (バス)	○荷物をクロークに預ける ○ガイド説明・館内自由行動 ○ガイド説明 ○館内自由見学 ○講話を聴く。	
9:10	名古屋駅発 (新幹線)		
11:27	広島駅着 (新幹線) 広島駅着 (徒歩)		
11:40	宿泊ホテル着 (徒歩) 宿泊ホテル発 (徒歩)		
12:00	昼食会場着 (徒歩) 【昼食】		
12:40	昼食会場発 (徒歩・路面電車)		
13:15~	おりづるタワー着 (徒歩・路面電車)		
13:45	【おりづるタワー見学】 おりづるタワー発 (徒歩・路面電車)		
13:55~	原爆ドーム着 (徒歩) 【平和記念公園内見学】		
17:00	・原爆ドーム ・慰霊碑巡り ・平和記念資料館 ・国立広島原爆死没者追悼平和記念館		
17:10	国立広島原爆死没者追悼平和記念館発 (徒歩・路面電車)		
18:05	宿泊ホテル着 (徒歩・路面電車)		
18:30~	【夕食】		
19:20			
19:20~	【お土産購入】		
20:00			
20:00	ホテル部屋に戻る		
20:30	振り返りタイム		
22:00	【就寝】		○学んだことの記入 ○健康観察 ○おみやげ整理 ○入浴



<第2日> 7月29日 (土)

時刻	行動	内容
6:00	起床・準備	○洗顔 ○着替え ○荷物整理 ○部屋の清掃
6:30	【朝食】	
7:30	ホテル発 (バス)	○大きい荷物をセルフクロークに預ける。
8:15	広島港着 (バス)	
8:30	広島港発 (似島汽船) 似島港着 (似島汽船)	
8:50~ 12:00	【似島見学】 ・第一検疫所跡地 ・弾薬庫跡地 ・第二検疫所跡地 ・馬匹検疫所焼却炉 ・慰霊碑 ・似島歴史博物館	○島内巡り開始。 ○見学場所についたらバスから降りて、ガイドの説明を聴く。
12:00~	【昼食】	
13:00		○小型バスに乗って乗船する。
13:00	似島港発 (似島汽船)	○小型バスに乗って降船する。
13:40	広島港着 (似島汽船) 広島港発 (バス)	
14:25	ホテル着 (バス)	○朝に預けた荷物の受け取り
14:40	ホテル発 (徒歩)	
14:50	広島駅着 (徒歩)	
15:03	広島駅発 (新幹線)	○のぞみ100号に乗車
17:19	名古屋駅着 (新幹線)	
17:30	名古屋駅発 (バス)	
19:00	市役所着 (バス) 解散式	【解散式】 1 岩月校長の話 2 林先生の話 3 近藤先生の話 4 教育長の話 ・レポート提出について
19:20	解散	





平和学習での様子

常滑市「広島平和学習派遣事業」



実施日	7月28日(金)・29日(土)
参加児童	市内小学生6年生 31名
引率者	5名
①	土方宗広 教育長
②	岩月浩子 校長(三和小)
③	林健太郎 教諭(三和小)
④	近藤佳織 養護教諭(常西小)
⑤	佐竹利規 主任(学校教育課)
添乗員	平松新弥 さん(JTB)

7月28日(金)

—第1日—





広島駅に到着！

車内で調べ学習です

トタン ネックストラップがお揃い!!



2時間17分もかかりました

名古屋駅～広島駅 新幹線での様子

お店の主人と楽しくお話ししながら食べ
ました。とても美味しかったです！

さあ昼飯だ！
広島のお好み焼きだ！

広島のお好み焼きは、麺が入ってるん
だ！こんなにも美味しいんだね！



猛暑日にも関わらず、とっても美味しかったです。

ひろしまお好み物語
駅前広場内

店名
「焼くんじゃ」
「HOPE」
「もみちゃん」

店員さんとの楽しい会話！
美味しいお好み焼きが
「最高でした！」



ガイドさんから、いろいろな話を聴きました

おりづるタワー展望台で



メモを取り、自分なりに考えました

平和記念公園内を歩きながら



「原爆の子の像」

平和への祈り



平和記念公園内を歩きながら



戦争の恐ろしさを知る資料が多くありました



平和記念資料館の展示から学ぶ



実体験を聞くことで、平和の大切さを知りました



証言者：山瀬潤子さん

被爆体験証言者の講話から学ぶ



ビュッフェがおいしかったです



おかわりもいっぱいしました



夕食（ビュッフェ）で親交を深める



夕食後、全員で駅ビルの「ekie」でお土産を買いました

7月29日(土)

第2日



似島

朝食
各部屋でお弁当



友達とお腹いっぱい食べました





バスに乗り込んだままフェリーに乗り込みました



ホテルからバスで移動しました。

広島港からフェリーに乗り似島港へ



第一検疫所跡地

「なぜ広島に原爆を落とされたのか」「なぜ似島に「第一検疫所」があるのか」「第一検疫所前の海になぜ桟橋が2つあるのか」など、様々なことを教えていただきました



ガイド：秋月敏勝さん



第一検疫所跡地で学ぶ



似島は「バームクーヘン」
日本における発祥の地です。



馬匹焼却炉



原爆被爆者診療の地



第二検疫所跡地、馬匹(ばひつ)焼却炉で学ぶ



慰霊と平和への祈り



慰霊碑から学ぶ



ガイド：宮崎佳都夫さん

似島ドイツ俘虜収容所



似島平和資料館で学ぶ



似島公民館で昼食





たくさんの友達できました

帰りのフェリー・新幹線



「帰着式」(第2日)

みんな元気に帰着できました。
猛暑の中、よく学習できました!

「ありがとうございました」

7/29 18:40

トコタン ネット ストラップ : ポートレースとこなめ提供



参加児童報告書

参加児童は、「平和、戦争、広島」について自ら学び、様々な想いを胸に広島市を訪問しました。

実際に広島市を訪れ、いったい何を見て、聞いて、感じてきたのでしょうか。

児童の感じた率直な想いが報告書に綴られています。

< 1 番 >

「広島と戦争の記憶

(原爆ドームとともに未来への思いへ)」

榊原 そよこ (三和小学校)

皆さんは、「平和」という言葉を知っていますか？自分が思う平和を想像してみてください。

私は、皆が笑顔でいられることだと思います。それでは、今から私と「命について・平和について」考えていきましょう。

まず、原爆ドームという建物は、過去はなんという建物だったと思いますか。

原爆ドームは、130年ほど前、宮島ホテルと言われる宿だったそうです。想像する限りきれいだったでしょう。笑い声が絶えなかったのです。

でも、あの時あの瞬間こんなことになると、誰が思ったことだったか。あの瞬間さえなければ。1945年8月6日8時15分(晴)あの一瞬がもたらした不安や恐怖。1945年8月6日8時15分このときに、米国から、リトルボーイという2000度～3000度にもなる原子爆弾が投下され大勢の人々の命が落とされました。

原子爆弾は、人体に爆風、熱風、放射能を与え、その衝撃により火傷や体が不自由になった人々もいれば、もう亡くなっている人々もいます。それからの街は、爆心地に近いほど焼け焦げた状態になり、家も何もかもが変化し、水も食料も焼け、重い大きな傷を負いながら空腹で喉も渴きながらも発した言葉は、「水を、水をください」。命がけに叫んでいるそんな人々の所に現れたのは、「ダラックレン」黒い雨が降り、人々は口を開きながら、からからに乾いた喉を潤わそうと雨を受け止めました。でも、その雨水は人体に大きな影響をもたらしました。とくに大きな被害となったのは、体が私達と同じくらいの子どもたちで、約6300人の子どもたちが幼き命を落としました。

原子爆弾は、人々の体と心に深い傷を残しました。今この地に生きる者たちに教えられたことは、広島、長崎へ投下された原爆による被害、それにより落とされた多くの一人一人の大切な命。広島では、今年も平和について全世界の人に知らせようと、多くの人が戦争について語っています。今もなお苦しい生を引き伸ばしながらも生きている人々もいます。

では私達は、そんな中どう生き、どう考え、どう行動すればいいと思いますか。人それぞれの平和は、違うと思います。

では、次に平和について考え、これからどう行動するとよいか考えてみましょう。

まず初めに話した自分が思う平和、なんでもいいです、もう一度じっくりと考えてみてください。

では、次に世界共通平和という言葉その名の通り世界で共通の平和、今さっき自分の思う平和について考えてもらいました。

では、周りと同じ平和とはなんですか。少し難しいですよね。私も少しよく分からないところがあります。

では、そんなに難しいのなら立場を逆転して考えてみましょう。皆さんは、平和の反対の言葉がなんの言葉かわかりますか、平和の反対は、戦争。戦争の反対は、平和。私達はいま当たり前のように平和に笑顔で、楽しく暮らしています。でも戦争、戦争は当たり前ことができなくなり悲しみと不安の中過ごします。でも戦争は、それぞれの国が自分の平和を守り貫こうとすると起こります。なので結論的にいうと平和や戦争は、誰が考えても難しく答えに辿り着けない。じゃあ、どうすれば戦争のない平和な世界を築く事ができるのでしょうか。それは、戦争と平和について学び、考え、それぞれの立場で自分にできることから始め、未来へこの思いやこの出来事を繋いでいき、もう二度と過ちは繰り返さないように、原爆で亡くなられた人々には安らかに眠ってほしい、そんな思いを込め未来に向けて私達は歩いていきたいですね。これをきっかけに平和、戦争、命についてはじめの自分と今の自分の考え方が少しでも違うといいですね。未来で過ちを繰り返さぬよう。

< 2 番 >

「2 日間で知った原爆の被害の大きさ」

竹内 小百合 （三和小学校）

私は、この二日間で原爆の被害がどれだけ大きかったかを知りました。

まずは、広島平和記念資料館で見た内容についてです。広島平和記念資料館では怪我や火傷を負った人の写真や「助けてください」「水をください」などの助けを求める声や被爆した人の服などがたくさんありました。

その中で私が心に残ったものは2つあります。

1つ目は当時あったことを再現した絵です。皮膚がボロボロになって声も出せない絵や血まみれとなった兵士や看護婦たちの絵、原爆の光を浴びて水を求める人の絵などさまざまな被害の絵がありました。私はこれを見てどれだけ酷い怪我を負ったのかが良く分かりました。

2つ目は黒い雨（放射能）です。乾いた喉を潤すために雨粒を飲んでいる人のイラストがありました。他にも錆びた三輪車や、焼けて剥がれてしまった仏像がありました。

次に、おりづるタワーで見学した内容についてです。おりづるタワーでは、産物陳列館の開館や、世界遺産に登録されたときのことなどが書かれていました。また、ガイドさんの話でその日に落ちた原爆の名前はリトルボーイということや原爆の温度は2000度～3000度、原爆の重さは約4tなど原爆についての理解が深まりました。

そして追悼記念資料館で聴いた講話です。原爆が落ちた瞬間のことを聞くと、「だいたい色に光った瞬間、ドオーーン！というものすごい音が聞こえて、みんながパニックになっていた」と話していました。他にも原爆が落ちたところから近い中学校と女学校の生徒はほとんどが亡くなってしまい、全生徒数約8200人のうち約6300人も生徒が犠牲になったと話していました。

最後は似島で聴いた話です。そこでは、日清戦争と日露戦争について話を聞きました。また、似島平和資料館には、原爆でなくなった人のボタン、ベルト、歯ブラシ、お金などがありました。

私はこの二日間で学んだことをクラスの人や家族に伝えたいと思います。そして二度とこのような被害が起きないことを願います。

< 3 番 >

「私達は二度と争いをしてはいけない。その理由は。」

平野 華凜 （三和小学校）

戦争はたくさんの人々の命を奪う。原爆は一度にたくさんの人々の命、場所、家族を奪う。それが、私がこの二日間でわかったことです。

原爆ドームは、昔「宮島ホテル」という建物でした。原爆ドームは原爆が落ちる前までは、とてもきれいな造りをしていた建物でした。しかし、8月6日午前8時15分、地上600mの上空から落とされた、たった一発の原爆のせいで原爆ドームは決してきれいとは言えない建物になってしまいました。そして、たくさんの人々やたくさんの生き物の命、場所を一瞬にして奪っていきました。原爆のせいで爆心地から半径2 km以内にあった家などの建物はすべて燃えてしまいました。

似島という広島県内にある島は、爆心地から遠かったため、ほぼ無傷で済んだそうです。

似島がほぼ無傷で済んだことにより、似島にはたくさんのけが人が一気に運ばれてきました。けが人が一気に運ばれて来たことにより薬や包帯、治療ができる道具などがすぐになくなってしまい、似島もとても悲惨な状況になってしまったそうです。その結果、大勢の人が亡くなってしまうという状態になってしまったそうです。

爆心地から約半径2 km以内は全てのもの、植物が燃えてなくなり、原爆ドームの中にいた人は原爆が落ちた瞬間に全員死んでしまいました。たくさんの人々や生き物たちが死んでしまった理由は、原爆によって出た放射能や風、水が飲めなかったことなどです。放射能や風は原爆が落ちてしまった以上どうすることもできませんが、「水が飲めない」ということはどうにかできたはずです。

しかし、今にも死にそうな人たちが、「水をくれ。」「水を飲ませてくれ。」と頼んでいるにも関わらず、兵士は「水はやるな。」と命令したそうです。その結果たくさんの人が死んでしまいました。このときに兵士の方が水をあげることを許し、水を飲ませてあげていれば助かった命が1つでもあったはずです。

このように戦争や争い、原爆などはたくさんの人々の心、たくさんの人々の命、場所を一瞬にして奪ってしまうほど恐ろしくて悲しいものなのです。このようなことを無くすために必要なのは、核兵器廃絶や、世界の人々が二度と絶対に戦争

や争いをしない、ということを願い、誓うことだと私は広島に行って思いました。そしてどうして戦争や争い、原爆がだめなのか。戦争や争い、原爆はたったの一発で人間だけで、14万人もの命を奪ってしまう。原爆のあとの被害が大きい。たくさんの人々の心を奪ってしまう。悲しい、悔しい、寂しい、苦しい、痛いというような人々のたくさんの思いが一生続くからだ、と私は思います。

実際には、日本も昔、戦争をしてしまっていました。しかし、今では、日本国憲法にある、平和主義をしっかりと守り、日本の人々も戦争や争いはたくさんの人々の命、たくさんの人々の心やたくさんの人々の大切な物、たくさんの人々の大切な場所を奪ってしまうから戦争、争いはだめなんだ、と気づき、今、戦争は一切していません。戦争や争い、爆弾などの核兵器はだめなんだという人々の思いや考えが戦争をこの世界から消してくれると私は思います。

世界中の人々が核兵器を使ったらどんな恐ろしいことが起こるかを知り、戦争、争い、核兵器がこの世界からなくなって、この世界の平和につながることを私は願っています。

< 4 番 >

「あの日を知る 8.6」

増田 花 (三和小学校)

目をつぶると浮かんでくる資料館での言葉や写真。原爆は、私が想像していたよりも遥かに恐ろしく辛いものでした。

8月6日午前8時15分、広島市に原爆が落とされ一瞬にして多くの命が奪われました。皮膚が溶け落ちているのに必死に我が子を探す母親。何も知らないまま命を落とした幼い子どもたち。川にぎっしり浮かんだ焼け焦げた死体。アメリカ軍はもともと原爆を爆心地から100mほど離れた相生橋に落とそうとしていましたが、風の影響で病院の上空600mで爆発してしまったことで、病院にいた人たちは体中に大火傷を負い、水を追い求めてもがき苦しみながら亡くなったそうです。どんなに怖かったか痛かったか、想像するだけで胸が痛くなりました。

原爆ドームは、1996年12月7日に反対国がいる中で世界遺産となって、今も、あの日広島で起こったことを伝える建物として大切に保存されています。沢山のの人に原爆のことを知ってもらうのは、戦争をなくす第一歩としてとても大切なことだと思います。

平和記念資料館には、原爆の他に放射能のことについても展示がされていて、「未だに人体に及ぼす影響が全てはわかっておらず当時はがんになって亡くなる人がとても多かった。」と書かれていました。

「放射能は人体だけではなく、人の心も破壊してしまう。」被爆者の方が言っていた言葉です。原爆時だけでなく、その後の人生も痛みや苦しみが続く、、、「核なんてなくなればいいのに、どうしてこんなに恐ろしいものを持っている国があるのだろう。」、「そもそも核を持つ意味はなんだろう」と広島学習を通してもっと知りたくなりました。その他にも、1日目に行った平和記念資料館には外国の方々がたくさんいて、写真や資料を見て原爆のことを知ろうとする姿がとても印象的でした。

2日目に行った似島では、当時「検疫所」と呼ばれる場所があったことを学びました。検疫所は、戦争から帰ってきた兵士たちから日本国内に伝染病が流行るのを防ぐための場所で、伝染病の疑いがある兵士たちは、治療をしたり衣類の洗濯をしたりして、日本に菌が入るのを防いでいたそうです。

また、原爆が落とされたとき、似島には被爆者の方が1万人ほど運ばれてきました。ですが、あまりにもたくさんの方が亡くなったために、馬匹検疫所という馬の検疫所で人間の遺体が焼かれたり、追いつかないときには検疫所の近くにそのままの状態で見捨てられたりして、今のようにきちんと火葬してもらえなかった人たちがいたことを知りました。

広島学習から帰り、いつも通り家族とご飯を食べて、好きなテレビを見て、色々なところに出かけたりできることは、当たり前じゃないんだ、幸せなことなんだと感じました。この幸せがこれからもずっと続くように、私にできることは、「原爆のこと」、「広島平和学習で学んだことを身近な人に伝えること」、「命を大切にすること」、「戦争についてもっと知ること」、「自分の国だけではなく今、世界で何が起きているのかに目を向けて、自分だったらどうするかを考えること」だと思います。私の妹はまだ1歳ですが、いろいろなことが分かるようになったらいつか広島の話をしてほしいと思います。

<5番>

「当たり前じゃない平和」

桑山 紗和 (大野小学校)

私がこの平和学習で思ったことは3つあります。

1 親が子供を守らなければならないような悲劇は起きてほしくない。

私は、ガイドさんの話や被爆者の体験談などで、原爆により、何千万人という多くの死者が出たことを知りました。

他にも、けが人や病人など、多くの人が原爆により傷ついたことも教えてもらいました。

それに、原爆により家族や友人などの大切な人を奪われ心が傷ついた人もたくさんいると思います。

私達に体験談を話してくださった方は「母が自分におおいかぶさるようにして守ってくれたおかげで助かった」とおっしゃっていました。そのことに、私は親子の愛情の深さに感動しつつも親が子供を守らなければならないようなことは起きてほしくないと思いました。なぜなら、私が母に守られて母が怪我をしたとすれば、私はとても深い心の傷を負うと思うからです。

2 二度と原爆で苦しい思いをする人を出したくない。

私は、平和記念資料館で被爆した人の写真や絵を見ました。写真や絵にのっていた人は、怪我がひどく、たった一発の原爆で多くの人々が重い怪我や病気をおったことにとても驚きました。なぜなら、怪我や病気が私の想像していたものよりもずっと重かったからです。もう二度とこんな目に合う人を出したくないと思いました。

3 戦争が起きていた頃の子供達は凄い人たちだった。

私は、今の自分と同じ年ぐらいの子供達が戦争の頃に学校ではミシンで服を縫ったり、農作業をしたりして働いていたことに驚きました。なぜなら、今の時代の子どもたちは授業をうけているときは問題を解いたりノートを書いたりして、休み時間や放課後は友達と遊んだりして過ごすのが「当たり前」だからです。私は、「戦争をしていた頃の子どもたちは、まだ幼いのに働いていたなんてすごい人達だったのだな」と思いました。

私はこの平和学習で、今、私達が「当たり前」だと感じているこの生活がけっして「当たり前」ではなく、昔の人達のおかげでこの生活を営むことができていたことを学びました。

そして、私は、未来の日本を継ぐ子供の私達が平和のことをたくさん学んで二度と戦争の起きない平和な世界になるよう、自分なりに努力しなければならないと思いました。



<6番> 「願う平和」

竹内 万結 （鬼崎南小学校）

私は、実際に原爆が落とされた広島に2日間いきました。そこでは実際に被害に遭った人の話や資料館を見たり似島に行ったりして色々な体験と経験をしました。

その中で特に平和について考えたことが2つあります。それは平和記念資料館と被害にあった人の話です。

まずは、平和記念資料館です。平和記念資料館では原爆が落とされた時の物や被害に遭った人の写真、絵が展示されていました。

私は、平和記念資料館を訪れる前に原爆ドームや慰霊碑を見たときにガイドさんから聞いた話も踏まえながら資料を見て平和について考えました。

それはインターネットで調べたものと同じでも思うことが違いました。知らなかった情報や先に調べていて知っていても実際に展示されているものを目の前にすると更にすごく怖くなり悲しい気持ちになりました。私は改めて原爆は良くないし恐ろしいものだと思います。原爆が落とされた当時のものを見ると戦争の大変さもわかりました。それに被害にあった人の遺留品などを見ながら説明も書いていて、とてもわかり易く体験をすることができました。平和記念資料館を回ったときに考えたことは、「どんなに悲しいこと、辛いこと怖いことだったのかを理解し、このことは人ごとではないと未来や私達の子孫に伝える。」ということです。

次は原爆を経験したおばあさんの話です。そのおばあさんは8歳のときに被爆したそうです。原爆のせいで父親とお姉さんが亡くなったそうです。落とされたその瞬間のこと、その後に起こったことや周りの人の反応などを教えてもらいました。今は数少ない原爆を経験した人の話を私達は聞けてとても良い経験になりました。話が終わったあとお土産に小さい鶴をもらいました。私はこの鶴とこの経験を大切にしていきたいです。

私は、この広島平和学習に行く前より平和についてよく知りました。私は「自分の身の周りから平和にして、いつかはこの平和が世界中に広がって欲しい。」と思いました。

<7番>

「広島から知った「平和」について」

石田 美月 (鬼崎南小学校)

私は8月6日に落ちた原爆について知りました。

まず、原爆ドームについてです。原爆ドームは100年以上前に建てられた物で、元々展示や市役所でした。そんなふつうの建物でした。そこに原爆が落ちたせいで、そこにいた人たちは全員亡くなりました。そんな教訓から原爆ドームは、世界遺産そして永久保存になりました。しかし、その世界遺産を決める時、アメリカと中国は反対しました。理由は、中国は、昔、日本にそういうことをされていたからです。アメリカの反対理由は、原爆を落としたのはアメリカだからです。

次に原爆についてです。原爆の危険なところは3つあります。それは爆風と熱風と放射能です。そしてその原爆ひとつで約20万人の人々が犠牲になり、亡くなりました。原爆のせいで親が亡くなり、子供だけになった人のことを原爆孤児と言います。子供が家事をしていました。そんな子達は約8,000人いました。今の私では考えられないほど大変だったと思います。そして広島にはなぜ折り鶴がたくさんあるのかです。昔、折り鶴を1,000羽折ったら長生きすると言われていましたので、色々な人が折り鶴をたくさん作っていました。そういう理由で折り鶴が多いです。

平和の鐘には世界地図が書かれています。そして、その周りにはハスの葉があります。その理由は原爆が落ちた時に火傷の手当としてハスの葉が使われていたからです。そしてその下には水があります。その理由は、戦争の時に水がなくて多くの人が水を欲しがったからです。平和の灯火は、ずっと消えることがない火です。しかし、世界から核兵器がなくなったら火を消します。そして原爆が落ちた78年後の今でも、名前がわからない死者や行方不明者や原爆のせいで苦しんでいる人たちが多くいます。原爆が落とされた時に広島にいた人たちの人数は約35万人です。その中の被害を受けた割合は92%です。そんな大きな犠牲を払う核兵器の保有国は9つです。ロシア・アメリカ・中国・イギリス・フランス・インド・イスラエル・パキスタン・北朝鮮です。早く全ての国から核兵器がなくなると嬉しいです。そして日本はあの核兵器が落ちてから1度も戦争を起こしていません。私は、これからはもう戦争が起きないことを願います。(日本以外も)

< 8 番 >

「平和の大切さ」

近藤 ひなの (鬼崎南小学校)

私は広島での平和学習で、3つのことを学びました。

1つ目は、「平和の大切さ」です。まず、平和記念公園に行きました。そこで原爆ドームについてガイドさんの話を聞き、原爆の被害について考えさせられる良い機会になったな、と思いました。

次に、動員学徒慰霊塔（どういんがくといれいとう）へ行きました。私たちと同じくらいの子でも働いていたことが分かり、戦争の被害は建物や命を失う以外にもあるんだなと思いました。

その次には、平和の鐘を見ました。平和の鐘には国境のない世界地図が書かれており、みんなで仲良くしようという意味だそうです。これを聞き私は、いつか戦争がこの世界から無くなるといいなと思いました。

最後に、平和祈念資料館へ行きました。原爆や戦争の被害、被害を受けても残った物などが展示されていました。展示物を見て、原爆を受けて残っているのもすごいけれど、それを残し展示することもすごいなと思います。

このようなことから私は、生まれ、平和を知らずに亡くなってしまった人が今もいると思います。いつかそういう人がいなくなったら、、、と考え、長い時間かかっても平和になったら良いなと思い、「平和の大切さ」を学びました。

2つ目は、「歴史の素晴らしさ」です。原爆ドームや平和記念資料館にも歴史はありますが、私は「似島」で歴史のすばらしさを学びました。

似島では最初に第一栈橋跡と第二栈橋跡を見ました。ガイドさんが荷物の荷揚げなどに使われた栈橋だと言いました。これを聞き私は、これらを残していてすごいなと思いました。

次に、馬匹焼却炉を見ました。被爆犠牲者を埋葬する、焼却炉だそうです。最後に似島歴史資料館へ行きました。似島の爆発前の資料がたくさんあり歴史を感じました。このようなことから「歴史の素晴らしさ」を学びました。

3つ目は、「それを伝えること」です。広島での平和学習を通し、学び、私は「戦争はいけない」、「平和を大切にしよう」ということを伝え、理解してもらい、考

えを広めていきたいなと思いました。これから、「平和リレー」をつなげていきたいです。みなさんも平和リレーをつなげてみてください。

< 9 番 > 「戦争と私達」

近藤 はなの (鬼崎南小学校)

私は広島に行き、平和を学びました。原爆ドームを見たり、似島に行ったりしました。そこに行く前は戦争に私達は関係ないと思っていました。でも、広島で戦争のことを学び、そこで3つの「あること」に気が付きました。

1つ目は、戦争の恐ろしさです。原爆ドームや、資料館、ガイドさんのお話を聞いて、改めて戦争は恐ろしいものだと思います。その理由としては、原爆ドームは骨組みだけで原爆が落とされたことが見ただけで分かり、悲惨な目にあったことが見て取れたからです。その他にも、資料館に火傷で傷だらけの子供の写真があったり、戦争の恐ろしさに気づきました。

2つ目は、平和の大切さです。資料館の写真や、原爆ドームを見て改めて平和は大切なのだなと思いました。その理由は、資料館に何枚もある傷だらけの子供の写真を見て「同じくらいの年齢の子なのに私と全然違う生活を送っているのだな…」と思ったからです。この理由の他にも、原爆ドームはボロボロで今の建物だとは思えないくらいだったり、平和は大切だということに気づきました。

3つ目は、平和が大切だと思わせる建物がたくさんあることです。その理由は、資料館が作られていたり、原爆ドームは「永久に保存する」と書いてあったりなど、広島には平和が大切だと思わせる建物がたくさんあることに気づきました。

最後に、広島で学んだ3つのことをおさらいします。

1つ目は、戦争がどれだけ恐ろしいか。

2つ目は、平和がとても大切なこと。

3つ目は、平和が大切だと思わせる建物がたくさんあること。

以上の3つを主に学んで来ました。この平和学習は楽しく、とてもためになったと思います。

これからも3つのことを思い、生活していきたいです。

<10番>

「私が思う広島への平和について」

杉浦 心春 （鬼崎南小学校）

【広島への平和について学びたいと思ったきっかけ】

私は、原爆が落とされたらどのような被害が起きて、どのような事が起きるのが気になりました。なので広島に行き、学んで何があったのかを知りたいと思いました。

【実際にあったできごとについて】

当時の状況を平和記念資料館で知りました。1945年8月6日午前8時15分にリトルボーイという原爆が投下されました。その温度は2000～3000度もするものなので、落とされたときに原爆ドームの中にいた人は全員亡くなってしまいました。この原爆は広島市のほぼ全体にわたり、広範囲に建物や衣服、人々の絆を壊していきました。実物を見て、やっぱり戦争はおそろしい事だなと思いました。

【平和の鐘について】

原爆ドーム近くに平和の鐘という場所があり、みんなで集まりました。平和の鐘の周りに水が張ってあるのですが、それには意味があるということをガイドさんに教えてもらいました。その意味は、戦争で水がなくなって、「水をくれ」と叫んでいた人がいたため、平和の鐘の周りに水が張ってあるそうです。これを聞いて私は、広島では水にも関係があるということがわかり、すごく戦争と関わりがあるなと思いました。



【実際の戦争】

戦争を体験されたおばあさんに、実際に戦争で何が起こったのか教えていただきました。

当時8歳だったおばあさんは原爆だけでなく、家の上に爆弾が投下されたそうです。そのとき、おばあさんのお母さんは、おばあさんをかばうように守ってくれたそうです。とても怖かったと思うし、明日があるかもわからない状況で生きていたので奇跡だなと思いました。

【まとめ】

今後、戦争が起きないように身近なことから考えていくこと、平和にするためには、これからは楽しく、笑顔で生きていくことが大切だと思います。そして、ひとりひとりが責任を持ち生きていくことが私達にできることです。なのでこれからも平和な環境を築いていきたいです。

<11番>

「2日間で考えたこと」

伊藤 咲世 （鬼崎南小学校）

私が「広島平和学習」に応募した理由は、私達が住んでいるこの日本に原爆が落とされたことについて、くわしく知り、二度と核兵器が使われないようにするにはどうすれば良いか、私達にできることはあるかなど、平和について考えたかったからです。

私が一日目で心に残ったことは、二つあります。

一つ目は、平和の灯についてです。平和の灯は、1964年に点火されて今まで一度も消えていないそうです。そして、世界中から核兵器がなくなったらその火を消すそうです。私はこの、「世界中から核兵器がなくなったら火を消す」というのが、とても良い考えだと思います。そして、早くその火が消えると良いなと思いました。

二つ目は、山瀬潤子さんの『あの日、何が起きたか』についての講話です。山瀬さんはその時9歳で、まだ小学生だったそうです。山瀬さんが最後におっしゃった、「戦争のない平和な世界を築くには、戦争と平和について学び、考え、それぞれの立場で自分にできることから始めましょう。」という言葉が心に響きました。私は山瀬さんの言葉から、一人一人が自分にできることを積み重ねていけば、いつか平和な世界になるかもしれないと考えました。私が考えた自分にできることは、あの出来事を忘れず、次の時代の人々に伝えていくことだと思います。

私が二日目で心に残ったことは、似島には戦争の跡がたくさん残っていたことです。私は似島には戦争の跡がたくさん残っていると聞いたときに、戦争の跡を次の時代に伝えるために壊さずに残しているのだと考えました。その戦争の跡を残すことで、戦争のことを教えるときに、よりくわしく伝えることができると思います。

私は二日間で、戦争の辛さと現在の平和のありがたさを学びました。これからは、平和な世界をつくるために自分ができることをやり、身近な人に今回学んだことを伝えていきたいです。

<12番>

「平和のために僕ができること」

森 蒼太郎 (鬼崎南小学校)

7月28・29日、僕は平和を学びに広島に行きました。

広島では原爆ドームや平和記念資料館などに行き、また、戦争を体験した山瀬潤子さんから講話を聞いたりしました。そこで学んで感じたことを報告します。

平和記念資料館には黒焦げになった弁当箱や学徒動員の学生服、子供の三輪車などがありました。これらを見て、普通に生活していただけなのに突然原爆の被害にあってどれだけ辛く苦しかっただろうかと思いました。

追悼平和祈念館の講話では、山瀬さんから当時の辛さや、大変さなどを聞きました。特に心に残ったのが、白米が大事だから大豆などを混ぜたりして食べていたことや火傷のあとにうじ虫がわいたりして大変だったということです。僕たちは、毎日のように白米だけのご飯を食べているし、ひどいケガや火傷をしたら病院に行きます。そういう当たり前の食事や病院がないという事は想像したこともありませんでした。

戦争について歴史マンガを読んだり、インターネットで調べたり、鹿児島県の知覧特攻平和会館で見たりしたことはありましたが、今回のように戦争を体験した人に話を聞いたのは初めてでした。この平和学習派遣事業に参加して講話を聞いて良かったです。

ガイドさんからは、原爆孤児について説明を受けました。原爆孤児とは疎開先から帰ってきた時に親が原爆で死んでしまって1人になってしまった子供たちのことです。僕ならそんなの悲しくて、不安で、怖くて生きていく自信がないと思います。そんな子供たちがたくさんいたというのはかわいそうだし大変だっただろうなと思いました。

広島から帰って、僕は家族に広島で見たり、聞いたりしたことを話しました。みんな興味深く聞いてくれました。

山瀬さんは、「戦争のない平和な世界を築くには戦争について学び、考え、それぞれの立場で自分ができることから始めるのが大切だ」と仰っていました。

今年、常滑市は「平和都市宣言」をします。僕はまずこの派遣事業で見聞きしたことを友達や知り合いに話して、戦争や平和について一緒に考えることから始めたいと思います。

<13番>

「原爆の悲惨さ」

伊藤 尊 (鬼崎南小学校)

広島平和学習に行く前は、戦争というものをどこか他人事のように思っていました。

僕の曾祖父は、戦争に行ったことがあると母から聞いていたので、戦争がどんなものだったのか、少し想像してみました。「ばくぜんと、怖い」というイメージでした。そういうイメージを持って広島平和学習に行ってみたら、このイメージが更に深まりました。それは、血や死体の腐った匂いがすることや、原子爆弾を浴びたときの熱さや痛さという具体的なものになりました。

実際に被爆したおばあさんの話を聞きました。原子爆弾が落ちたあと、火事が広がらないように、建物を壊していたと聞きました。他にも、原子爆弾が爆発したときの温度は、太陽の温度の2倍～3倍の温度で、2,000度～3,000度もするというのも聞きました。山の影になっているところは、建物があまり壊れていなかったというのも分かりました。

この広島平和学習に行って、一番印象に残っていることは、平和記念資料館でみた、色々な写真です。その写真の中で特に印象的なのは、背中いっぱいケロイドができていた写真です。なぜかというと、一部にできているのではなくて、背中全体にケロイドができていてびっくりしたからです。

他にも、原子爆弾で、街や、建物がどのくらい壊れていたのかが分かりました。実際に被爆したおばあさんの話で聞いた、けが人がトラックみたいな車に乗って運ばれて行っているイラストを見たときはびっくりしました。

戦争というものがどこか他人事のように最初は思っていたけど、広島平和学習で学んで、自分の住んでいる日本でこのようなことが起きていることを知って他人事のように思えなくなりました。この広島平和学習で学んだことを、これからも忘れないようにしていきたいです。

<14番>

「戦争について感じたこと」

徳永 莉子 （常滑西小学校）

私は広島に行って広島にどんなことが起きたのか学びました。

【知ったことその① 原子爆弾でおよそ19万人の人が死んでしまったこと。】

原子爆弾が落とされたところから2キロメートルの範囲でほとんどの人が死んでしまいました。落とされたところは広島県物産陳列館（ひろしまけんぶっさんちんれつかん（現在の原爆ドーム））です。その中にいた人は全員死んでしまいました。

【知ったことその② 戦争での怪我がすごかったこと。】

戦争の怪我は、血はもちろんだらだらと出ていて、でも一番多かったのは放射線による吐血、白血病、などで、喉が渇き、水もなかったので黒い雨（放射線）を飲むしかなかったそうです。また、やけどの怪我は全身が腫れて泥パックしたように皮膚が剥がれてしまったそうです。

【このようなことから自分たちにできることとは？】

以下のようなことを考えました。

- ・広島県は原子爆弾によって「どんなこと」が起きたのか知る。
- ・どうすれば戦争のない平和な世界になるのか考える。

このような考えから戦争のない平和な世界を築いていくには戦争について学び、知り、それぞれの立場で自分にできることから始めていくことだと思いました
世界中で戦争のない平和な日を願っています。

<15番>

「2日間で思ったこと」

小川 心寧 (常滑西小学校)

私は、7月28、29日に平和学習に行きました。その2日間で思ったことをレポートしたいと思います。

アメリカは、原爆を落とす前にポツダム宣言をしました。でも、日本は、それを無視しました。それで、アメリカは、日本に原爆を落としました。広島に落とされた原爆は、リトル・ボーイで、4 tもの重さがあるそうです。



温度は、2000℃～3000℃の高い温度で驚きました。原爆の影響は、爆風、熱風、放射能で、爆風、熱風でほとんどの人は亡くなってしまいました。逃れることができた人も、放射能で、数日後に亡くなってしまいました。そんな放射能は、小さな子供に被害が大きいのです。罪無き子供に被害が大きいのは悲しいです。そして、戦争や原爆で多くの大人が亡くなりました。それによって、原爆孤児が増えました。

私は、親がないことは考えられません。親がない原爆孤児は、とても可哀想だと思います。

被害が大きい範囲は、被爆した中心から約2 kmの範囲です。原爆の威力は、デカくて怖いです。

人口も、35万人から、半分以下の14万人に減ってしまいました。人口を半分以下にまでしてしまう原爆は恐ろしいです。

核兵器所持国は、9カ国もあるのです。核兵器を持たないようにして、ウクライナとロシアの戦争が早く無くなって欲しいです。

これからは、どうしたら世界が平和になるのか考えて、身近なところから平和にしていきたいです。

この企画を考えて、参加させていただき、ありがとうございました。

<16番>

「原爆ドームに行って」

青木 めぐみ （常滑西小学校）



左の写真は原爆ドームの写真です。

原爆ドームは1915年にできました。そのあと1945年に原爆が落とされ、建物の殆どが壊れてしまいました。しかし、窓が多かったため、窓から風が吹き抜けてドーム内の空気圧が外よりも高くならなかったことと、衝撃波を受けた方向が直上だったので中央のドーム部分だけは全壊を免れました。ドームの部分は全体が押しつぶされるほどの衝撃を受けなかったため、爆心地付近では数少ない被爆建造物として残りました。

右の写真はおりづるタワーから見た原爆ドームです。

おりづるタワーは地上14階建てで、タワーの上から原爆ドームを見ることができます。上から見ると下から見るとよりも全体がわかりやすいです。14階まで階段で上るのが大変でした。上からすべり台で降りることもできます。おりづるタワーではお土産を買うことができます。

<17番>

「この2日間で感じたこと」

近澤 真歩 (常滑西小学校)

私は、広島平和学習に参加して、たくさんを知りました。私達は、最初に原爆ドームに行きました。原爆ドームは、原爆が落ちたその日からずっとそのまま残っていると知ってとても怖くなりました。原爆ドームは、ほぼ骨の様な状態で、100年間ほど残っているそうです。

次に平和記念資料館に行きました。平和記念資料館には、その日に落ちた原爆で燃やされた三輪車、服など、本物が置いてあり、三輪車も服も丸焦げで服はビリビリに破れていました。原爆でボロボロになった皮膚の写真などもありました。戦争で原爆が落とされる前の原爆ドームの写真、川に人の死体が浮いている写真、見るだけでぞくぞくして、怖かったです。

見学している中には、折り鶴がたくさんありました。

その後に私達は、被爆者のおばあさんの話を聞きに行きました。建物は90%が被害を受けたそうです。亡くなった人も約14万人と沢山の人が亡くなってしまいました。おばあさんが説明してくれる中に女が一生懸命、親族の遺骨を狂ったようにして叫びながら守っている絵がありました。おばあさんが「原爆は人の体だけでなく、心も狂わせる。」と言っていました。

次は2日目です。2日目は似島に行きました。似島はバウムクーヘンが有名と書いてありました。似島では、慰霊碑や資料館に行きました。似島の資料館には原爆のときに焼け焦げた歯ブラシや、ボタン、人の骨の一部などがたくさんありました。その当時の新聞記事や写真なども飾ってありました。

私は、この広島平和学習を通して、戦争を起こすとたくさんの方が不幸になり、傷つき、命も心も、平和な生活も奪われるということがわかりました。だから戦争はしてはいけないと知りました。

私はこの二日間で、他校の子とも仲良く慣れたし、みんなが平凡な毎日を送られていることが本当の平和だと思いました。

<18番>

「私が伝えたいこと」

渡邊 心鈴 (常滑東小学校)

私達は、2日間にわたり広島で原爆について学び、平和について考えてきました。この2日間で特に感じたこと、印象に残ったことは2つあります。

1つ目は、原爆が落ちた日、何が起きて広島がどうなったかです。

この日お話をしてくれた山瀬潤子さんの話によると、中学生のほとんどが戦争のために、軍の指示で広島に集められ、働かされていたそうです。そこに集められた中学生の人数は約8,200人ほどです。そして、その場にいた中学生の半数以上の約6,300人の人が亡くなりました。

原爆が落ちたときに強烈な爆音と3,000度以上に達した爆風があったそうです。私は話を聞いたのですが、たくさんの方がパニックと悲しみと痛みでいっぱいだったことが山瀬さんの話を聞いて分かりました。そして、山瀬さんは、「戦争のない平和な世界を築くには、戦争と平和について学び考え、それぞれの立場で、自分に出来ることから始めましょう！」とっていました。

私は、この言葉を聞いて、戦争をしないのはもちろんそうですが、平和な世界を作るには自分が出来ることから少しずつ努力をすることが大切だなと心から思いました。

そして、少しずつ平和につながるような努力をしていけたらいいなと思います。例えば、広島平和学習で分かったこと、感じたことをまずは身近な家族や友達に伝えていこうと思います。

2つ目は、原爆が落ちたとき落ちたあと、似島で何があったのかです。

2日目に日照りの中、話をしてくれた似島のボランティアの方によると、昔、広島は偉い人などが集まる場所だから、広島を狙って原爆を落としたそうです。

原爆が落とされたことで広島の学校はすべて壊れてしまいました。その時、その場にいたたくさんの方が助けたり、協力してくれたりしたそうです。

原爆ドームのことを昔は、産業奨励館と言っていました。そして、似島には、約1万人もの被爆者が運ばれました。ですが、たくさんの方が運ばれてきて手に負えないほどの人数になってしまったので、色々なところに遺骨を埋めたそうです。それで、どこに埋めたか分からなくなり、色々な場所を掘ったらバケツ30杯分の遺骨

が発見されたそうです。いまだに見つかっていない遺骨がありそうだなと思いました。遺骨の量を聞くと、どれだけの人が犠牲になったか、考えただけでとても悲しく怖くなりました。

現在、日本は78年間戦争をしていません。このまま、戦争をしないで平和でいてほしいなと思います。そして、日本だけでなく世界中から戦争がなくなり、誰もがニコニコして生きられる世界がくれたらいいなと思います。



<19番>

「平和学習で学んだこと」

山下 莉優 （常滑東小学校）

広島平和学習で私は、戦争や平和についてたくさんのことについて学びました。はじめに山瀬 潤子さんが「あの日何が起きたか」というお話をしてくれました。原爆が投下された日の天気は危険なことなど何も起こらないような晴天の日で、原爆が投下されたときに国民学校に行っていた1、3年生はほとんど全滅したそうです。被爆して、皮膚がむけたところに白いうじが湧いていたそうです。原爆の放射線などで亡くなってしまった人の数は約14万人。その中に、広島市民、軍人など色んな人が広島にはいましたが、亡くなってしまいました。ですが、太平洋戦争を最後に日本は78年間戦争をしていません。

いま、原爆保有国は9か国あって、その原爆をなくそうと山瀬 潤子さんは活動しています。山瀬 潤子さんは、最後に「戦争のない平和な世界を築くには戦争と平和について学び考え、それぞれの立場で自分たちにできることから始めること」が大切なのだということを教えてくれました。

次に似島で検疫所と焼却炉のことについて学びました。

似島には似島検疫所というところがあり、広島に原爆が投下されたときには臨時野戦病院となって20日間に約1万人の負傷者が広島から搬送されたそうで、備蓄してあった5,000人分の薬もすぐに底をつき麻酔無しで手術した人もいたそうです。原爆の影響でなくなってしまった人を焼却炉で焼いていたのですが、それが間に合わなくなってしまったのか馬匹焼却炉で人間のものと見られる灰がバケツ30杯分見つかったそうで、他にも亡くなってしまった方を防空壕に入れたり、土葬していたそうで80体ほど埋まっていたそうです。一つの原爆が無差別にそして沢山の人の命を奪い、精神を狂わせてしまう非人道的なものだということは知っていましたが、苦しむのは病気にかかってしまった人だけではなく家族や友人をなくしてしまった人など沢山の人が悲しむことを知りました。今回の学習を経て、私は、戦争という悲惨なことが日本でも起こって他人事ではないということを次の世代に繋げ、戦争、核兵器をなくして平和な世界をつくりたいなと思いました。

<20番>

「戦争を繰り返さないために私達が今出来ること」

柳野 柚衣 (常滑東小学校)

戦争を繰り返さないようにするにはどうしたらよいか、

私は、私達が戦争の悲しさ、残酷さを知ることが大切だと考えます。

戦争とは、人と人が殺し合って、多くの人が死んでしまうとても悲惨なことです。

しかし、実際に経験していない私達はその残酷さを理解できずに、世界で今もなお起きている戦争もどこか他人事のように感じているのではないのでしょうか。

もし、あなたの家族や友達、また大切な人が何の前触れもなく死んでしまったらどんな気持ちになりますか。

今回、私たちは、広島港からフェリーに乗って似島という島へ行きました。

とても自然豊かで釣り人や観光でにぎわうこの島ですが、原爆落下直後はまるで地獄のようなところだったようです。

当時約1万人の被爆者が筏に積まれ、ひっきりなしにこの島へ運ばれてきたそうです。

関係者の証言やのちに発掘された遺骨数から、運ばれてきた方のうち、約7割の方が亡くなられたと推計されています。

亡くなった人の数が多すぎる為、火葬が間に合わず土葬されることになったそうです。私が調べた資料にはその時の様子を絵に残したものがあつたのですが一度見たら忘れることはできないほど恐ろしい光景でした。このことを知ると知らないとは大違いです。

この筏が何に使われていたのか知ってしまうと、とてもゾワッとしてあまり見たくなくなります。戦争というものはこんなにも悲惨で残酷なものです。

戦争をもう二度と繰り返さないために、私は戦争を知ることが大切だと考えます。この戦争を知るという行為は、授業で先生などから話を聞くだけではなく、この悲惨な戦争で亡くなったのが自分の家族や大切な人だったらどうだろうと真剣に考え、自分の心で捉えたり感じることでと考えます。自分自身の目で見ることや、当時、戦争を体験した人のお話を聞くことが重要だということを、この平和学習で学びました。

このような悲惨な戦争を再び起こさないために、この平和学習で学んだことを忘れることなく伝えていきたいです。



<21番>

「広島を巡り、考え、感じたこと」

平松 栞 （常滑東小学校）

私は、原爆ドームや平和の灯、平和記念資料館などをみて、戦争は二度としてはいけない人類の大きな過ちであったと感じました。そう感じた理由は、たくさんの人たちが犠牲になったことはもちろんですが、私たちと年が同じ子どもたちや少し離れている子、私たちなんかよりずっと年が離れているのに戦火に巻き込まれて人生を終えてしまったり、被爆して苦しんで亡くなっていった子たちがすごくたくさんいたことがとても悲しかったからです。

私は、実際に原爆の瞬間を見たわけでも、被爆したわけでも、戦争の真っ只中に生まれたわけでも生きていたわけでもないけれど、私たちよりもあとに生まれた子たちに戦争のことを忘れないでもらうために、戦争のことについて今回、聞いたことや見たこと、感じたことを伝えなければいけないと考えます。その時には、被爆して辛うじて生き残ることができた方だって、被爆症で数カ月後、数年後に命を落としてしまう方も少なくなかったことも、戦争の悲惨さを教えるための重要なことだとして伝えたいと思います。

この世の中にはまだ核兵器を保有し続けている国が9カ国あるといわれていますが、戦争で犠牲になってしまった人、ただ生きていただけなのに人間の愚行に巻き込まれて一生を終えることになってしまった動物たち、たった一つの核爆弾で命をおとしてしまった人の霊のためにも、一日でも早く核兵器の脅威のない世界にして、「平和の灯」を私たち人間の手で消せる日が来ることや、犠牲となってしまった方たちのまだ完全に成仏できていない霊が本当に安心して成仏できる日が来ることを考えて、これからを大切に生きていきたいと思いました。

そして、戦争や原爆で犠牲になってしまった人たちが、これからを背負う私たちが進むべき道を教えてくれたことに感謝して、いつか世界中のたくさんの人々が安全に暮らすことのできる日々が来ることを願います。

<22番>

「当たり前ではない平和」

宮本 千暖 (常滑東小学校)

今、私達が住んでいる日本では、毎日美味しいご飯が食べられ、きれいなお洋服が着られ、友達と笑いあえる、そんな平和が当たり前にあります。しかし、78年前の日本には平和はありませんでした。

原爆が落とされた1945年8月6日午前8時15分、当時8歳だった山瀬潤子さんから今回、原爆が落とされた日のことを聞くことができました。あの日は、天気のものすごく良くて空襲警報も解除されて、みんなが安心して生活していたそうです。ところが、突然、飛行機が飛んできて来て、山瀬さんがふと上を見るとだいたい色の大きな球が『ドッカーン』と落ちたので、山瀬さんは、「太陽が落ちてきた!」と思ったそうです。その太陽は原爆でした。

原爆が落ちてきて辺りの様子が全く変わってしまい、地面の温度が上がり、まるで火の上を歩いているようで、辺りには腕から血を流しながら、赤ちゃんを抱いて「助けてえー」と叫ぶお母さん、他にもすでに遺骨になってしまった人を必死に守り狂ったような女性もいたそうです。当時の広島には35万人がいたのですが、たった1個の原爆でその中から約14万人もの人が死んでしまったのです。今では考えられないのですが、これは外国で起きたことではなく、78年前の日本で実際に起きたことです。

原爆が落とされる前の広島には広島県物産陳列館という広島の特産物を売っている今でいうショッピングモールがあって、人でにぎわっていたそうです。原爆が落とされて辺りは焼野原になったけれど、この広島県物産陳列館の骨組みだけが残ったので、この陳列館は、原爆をもう二度と落としてはいけない平和を求める誓いのシンボルとして、原爆ドームと呼ばれることになりました。しかし、原爆ドームは建物にヒビが入ったり、建物の周りにはがれきが落ちて今にも壊れそうでした。

原爆ドームの近くにある平和記念資料館には、戦争への訴えや私達よりも小さい子供たちの写真、当時の戦争を絵で表したりして置かれていました。また、資料館には当時の服や使っていたものも展示されていて、実際に日本で戦争があったということを改めて実感することができました。

また、今回広島に行って気づいたのは、広島には噴水が多いということです。原爆が落とされた後、広島の人達は体が焼かれて、水を求めながら死んでいったそうです。その人達のことを思って、広島にはあちこちに噴水が作られたから、噴水が多いのだそうです。

他に気づいたことは、日本人と同じ数くらいの外国人が観光していたということです。ガイドさんになんで外国人がこんなに観光しているのか聞くと、外国人は原爆が落ちたその日の天気や暑さを実際に体験するために、あえてこの時期に広島に来ているのだそうです。

今、私達が暮らしている日本には当たり前のように平和があって、私は昔からずっとこの平和が続いているのだと思っています。しかし、そうではなく、昔の日本は、戦争があって家族がばらばらになったり、満足にご飯も食べられない、小さいうちから働かないと生活していけない、毎日空襲におびえながら生活をしなければならず、平和なんてありませんでした。

戦争は、人を殺し合う悲惨なもので、平和とは程遠く、戦争で死んでしまった人、死なずに残された人にお互いにとってもつらく悲しいものだということを今回の研修で学びました。戦争がつらく悲しいものだとなれば、誰でももう二度と戦争をしてはいけないと思うはずです。

私は山瀬さんのように実際に戦争を目で見てはいるわけではありませんが、山瀬さんが伝えてくれたように周りの人に戦争のことを伝えていこうと思いました。そして、戦争を二度と起こさせないと周りの人が思ってくれるように少しでも力になりたいと思いました。



<23番>

「みんなに伝えたいこと」

高崎 蒼真 (常滑東小学校)

僕は、この2日間で、被爆したらどうなるのか、似島がどのように使われていたかなどを学びました。

原爆の放射線を受けると、髪の毛が抜け落ちて、少しの間、髪の毛が生えてこない人もいます。皮膚は溶けて、骨が見えてしまうことがあるそうです。

原爆ドームは、レンガが建物の近くに落ちていて骨組みが見えボロボロでした。レンガの建物を破壊してしまうほどの衝撃だったら、人が受けた衝撃は想像以上だと思いました。原爆はそれだけ強力なものと改めて知って、危険で絶対に使ってはいけない物だと思いました。

おりづるタワーでは、第二原爆被害者の人の話を聞きました。「亡くなってしまった人になんて声をかけますか？」という質問を記者から受けたことがあるそうです。その質問に、上から見下ろすような言い方をするのは嫌だという人もいるそうです。理由は、助かった自分からみて、死んでしまった人が下のように言っているようだからだと聞いて、その気持ちがわかりました。僕だったらなんて声をかけるか考えましたが、決められませんでした。



平和記念資料館の近くに、核兵器がなくなるまで燃え続ける「平和の灯」がありました。世界から核兵器がなくなると火が消えて、平和であるということだと話していました。僕たちに、まだこの世界に核兵器があることを教えてくれているのだと感じ、早く核兵器のない世界になるといいと思いました。

似島ではガイドさんから、似島発祥のものや、戦争の時にどのように活用されていたかを聞きました。バームクーヘン発祥の地で、牡蠣の養殖もしているところだそうです。また、原爆のダメージがほぼなかったため、ここに野戦病院を作り、1万人以上のけがをした人が手当を受けたそうです。けがをした人が多かったため、

けがをした人を船にくくりつけて運び込んだそうで、今では考えられない状況だったと知りました。



僕はこの2日間で学んだことをみんなに伝えたいと思います。
そしてその伝えた人が、また誰かに伝えていくきっかけになることが、平和のために僕にできることだと思いました。

<24番>

「平和学習に行って」

堀内 時希 (常滑東小学校)

僕が広島平和学習に行って分かったことは、今から78年前に広島に人類初の原子爆弾が落とされて14万人が亡くなり負傷者が10万人以上で、原子爆弾がこんな威力だったということです。原子爆弾や核ミサイルなど色々な種類があるけど、日本のルールで持たない、持ち込ませない、造らせないという言葉が世界各国に知ってもらいたいです。

おりづるタワーに上って原爆ドームの写真を撮って原爆ドームの画像を見て損傷がすごくて驚きました。その他にも被爆体験者の話を聞いてその当時の悲惨さがとても伝わり、平和が一番だと思いました。

平和記念資料館へ行って、原子爆弾の威力がどうだったかを見て、お金や瓶や薬瓶が折れ曲がっていたことに驚きました。その他にも黒焦げになった三輪車や中学生の制服がありました。原子爆弾の熱さは、なんと6,000度で、太陽の表面の温度と同じで広島県の地面の温度はとても熱くてみんな生きていくことが不可能な温度で僕や友達も驚いてしまいました。

似島に行って分かったことは、原爆が落ちてから数分で負傷した人が来た所は、普通は病院ではないのに病院になるのがとっても早く行動ができていたことで、僕も行動力を早くしたいです。

似島の平和資料館で馬の遺骨と歯が展示されていたので驚きました。

僕が世界に訴えたいことは、国との戦争や、例えばロシアとウクライナが戦争をする前に話し合いなどをしてお互いの国が納得する意見が出るまで話し合い、国との戦争にならないような未来のある世界にして、これからも平和が続く事をずっとずっと願い続けていきたいです。広島平和学習に行って、改めて戦争というものがどんなにいけないものなのかを振り返ることができ、戦争についてよく知ることができたので良かったです。広島の資料館に行って、長崎県の原爆の威力について詳しく知りたくなりました。その他にも核兵器の種類をパソコンで調べたりして核兵器の名前を詳しく知りたいです。あと、日清戦争と日露戦争について調べたりしたいです。



<25番>

「広島平和学習で学んだ2日間」

後藤 美玲 (西浦南小学校)

今回、わたしが広島平和学習に参加したいと思ったきっかけがあります。

アニメでほたるの墓、はだしのゲン、ちいちゃんのかげおくりなどの物語を見たことがあり、その時代はなぜ戦争が起こってしまったのかを知りたくなり、今回の学習に参加しました。

一日目は、おりづるタワー・原爆ドーム・平和記念資料館・追悼記念資料館に行きました。実物の原爆ドームは写真やテレビで見た時より、すごくボロボロで驚きました。

平和記念資料館では、当時のものや写真が沢山残されており、原爆の威力を知りました。

中でも印象に残ったものが真っ黒なお弁当です。見ていて本当に悲しくなりました。1つの原爆で多くの人々の命が奪われたことは未だに信じられません。

平和記念資料館の後は、追悼記念資料館で講話を聞きました。講話を聞いて、原爆投下で亡くなった人が約14万人もいると知って驚きました。

今の日本は戦後78年間戦争をしていない平和な国ということも知りました。もしも原爆で苦しんだ人達がいなかったら78年の間に戦争が起こっていたかもしれないと考えると恐ろしくなりました。そもそも第二次世界大戦に日本が参戦したきっかけが真珠湾攻撃で、日本がハワイを攻撃したことから始まったことにとっても驚きました。この攻撃がなかったら原爆投下もなかったかもしれないなと思いました。

二日目は、フェリーにバスごと乗り似島へ行きました。似島が戦争に利用されたのは、1895年に検疫所が設けられたのが始まりです。検疫所に医薬品の蓄えがあったことから、原爆投下後に臨時野戦病院となりました。フェリーで似島に着いてから第一検疫所跡地・弾薬庫跡地・第二検疫所跡地・馬匹検疫所焼却炉・慰霊碑・似島歴史博物館に行きました。

わたしがとても印象に残った場所は馬匹所です。馬匹所は戦争や病気で亡くなった馬を火葬する場所です。しかし、戦争で亡くなった人が大勢いた為、火葬する時間や場所がなかったので、人も馬と一緒に火葬したことを聞いて、残酷だなと思いました。

この二日間の広島平和学習では、貴重な話を聞いたり普段行けない場所に行ったりと、とても勉強になりました。世界中で戦争がなくなってほしいと今まで以上に想いが強くなりました。



<26番>

「原爆や戦争が私達に教えてくれたこと」

今樫 あずさ (西浦南小学校)

私は広島に行き戦争や紛争、原爆の恐ろしさがよくわかりました。

平和資料館の中に入ると、戦争や紛争の歴史や被害を記録した展示物がたくさんありました。原爆によって炭化したお弁当や原爆が落ちた時間から一度も動いていない時計などの写真や映像を見るたびに胸が痛くなりました。

次に講話を聞いて原爆がどれほど恐ろしいものかわかりました。原爆は「リトルボーイ」といい、長さ3メートル直径0.7メートル重さ4トンの原子爆弾が広島に落とされました。爆心地から2キロメートル以内の建物はほとんどすべて破壊し焼き尽くされ、人は皮膚が焼き尽くされるなど原爆によって14万人程も亡くなりました。原爆が落とされる前の広島市の人口は35万人程もいました。原爆によって半分近くもの人たちが亡くなってしまったのです。

次にガイドさんから教えてもらったことについて話します。

まず1つ目は、ガイドさんに「あれは平和の灯と言って真ん中に火がついているのだよ」と言われました。ガイドさんが、「地球上から核兵器がなくなったらあの火は消えるのだよ」と教えてくれました。

もう1つ教えてもらったのは、広島平和都市記念碑には広島に投下された原爆により死亡した方の氏名が書いてあるノートを奉納しているのだよと言っていました。けれど白紙のノートもいっしょに奉納しているのだよ、なんでだと思っていると聞かれました。なんでかと言うと原爆が落ちて行方不明になった人が見つかったら白いノートに氏名を書いて奉納するのだよと教えてくれました。ガイドさんは原爆が落ちて78年も経つけれど見つからない人はたくさんいるのだよと教えてくれました。

次におりづるタワーで、自分で折ったおりづるを落とせるところがあるのでやってみてもいいですよとガイドさんが言っていたので、おりづるタワー専用の折り紙でおりづるを折って平和を願い投函しました。

平和学習を体験して、戦争や紛争や原爆の恐ろしさについてよくわかり、戦争や紛争、核兵器のない世界が実現できたらいいなと思いました。



<27番>

「平和学習での学び」

宮原 真矢 (小鈴谷小学校)

広島原爆について勉強しに行こうと思った理由は、5年生の国語で「たずねびと」という物語に原爆の事が出てきて、ずっと前から気になっていたからです。

この二日間でいろいろなところを回りました。慰霊碑巡りのときのガイドさんの話の中で平和の灯について教えてもらいました。平和の灯は、手のひらを大空に広げた形をしているそうです。灯は、世界に核兵器が無くなると火が消えないそうです。まだ世界にはたくさんの核兵器があるので、火は消えません。核兵器がなくなるといいなと思いました。ガイドさんのお母さんが中学生の時、原爆が落ちたときに川を泳いで逃げたという話も聞きました。川には水を求めてたくさんの方がいたそうです。折り鶴タワーから川を見ながら想像してみたけど、川が広くてそんなことがあったとは信じられませんでした。



特に印象に残ったことは、平和記念資料館です。平和記念資料館では、原爆が実際に落ちたことがわかりました。



その中で印象深かったものは、焦げた弁当箱や変形したガラスビンです。弁当箱は、穴が空いていたり、真っ黒に焦げたりしていました。変形したガラスビンは、ザラザラしていてふにゃふにゃに曲がっていました。すご

い熱でこんなに溶けたんだなと思いました。さらに血だらけの人や体の皮がめくれている人の写真や絵がありました。私は、怖くてあまり見るできませんでした。

追悼記念資料館での講話の中で、原爆の影響で時間が経ってから癌などの後遺症で苦しんで亡くなった人がいると知り、原爆は本当に怖いのだなと思いました。

他に心に残っていることは、たくさんの友だちと仲良くなれたことです。新幹線やホテルでいっしょにいろいろな話をするうちに新しい友だちができました。新幹

線で喋ったり、ホテルで泊まったりするのはドキドキしたけど楽しかったです。とても暑くて大変だったけど、友達がいたから頑張れました。

この平和学習の前は広島について深く知ることがなかったけど、この学習をきっかけに平和について考えることができました。広島に行く前も、ネットで調べたり、家族と話をしたりしました。帰ってからもこのレポートを書く時に自分の撮った写真を見たり、メモを読み返したりして広島のことを考えました。テレビのニュースで原爆のことをやっているときに見るようになりました。自分は関係ないことだと思っていたけど、実際にいろいろ見たことで、他人事ではないんだと思うようになりました。戦争によって使われた原爆での被害をみんなが知ることで戦争がなくなっしてほしいと思います。私はこれからも、平和について考え、原爆で亡くなった人たちの思いを忘れず生きていきたいと思います。どの国も核兵器をもたず、みんながルールを守って幸せに暮らせるようになってほしいと思います。

<28番>

「広島歴史」

鈴木 由菜 (小鈴谷小学校)

広島平和学習についてなぜ参加したかという理由は、3つあります。

1つ目は、教科書で「平和の誓い」を読み上げる小学生が印象に残っていること。

2つ目は、たずねびとの話にでてきた「原爆供養塔納骨名簿」についてどんなものかということ。

3つ目は、原爆がどれだけ恐ろしい物だったのか知りたいと思ったからです。

ガイドの上野さんから広島歴史を教えてくださいました。池や噴水が多いのは、水を求めて亡くなった人達の霊を慰めるためにあるそうです。

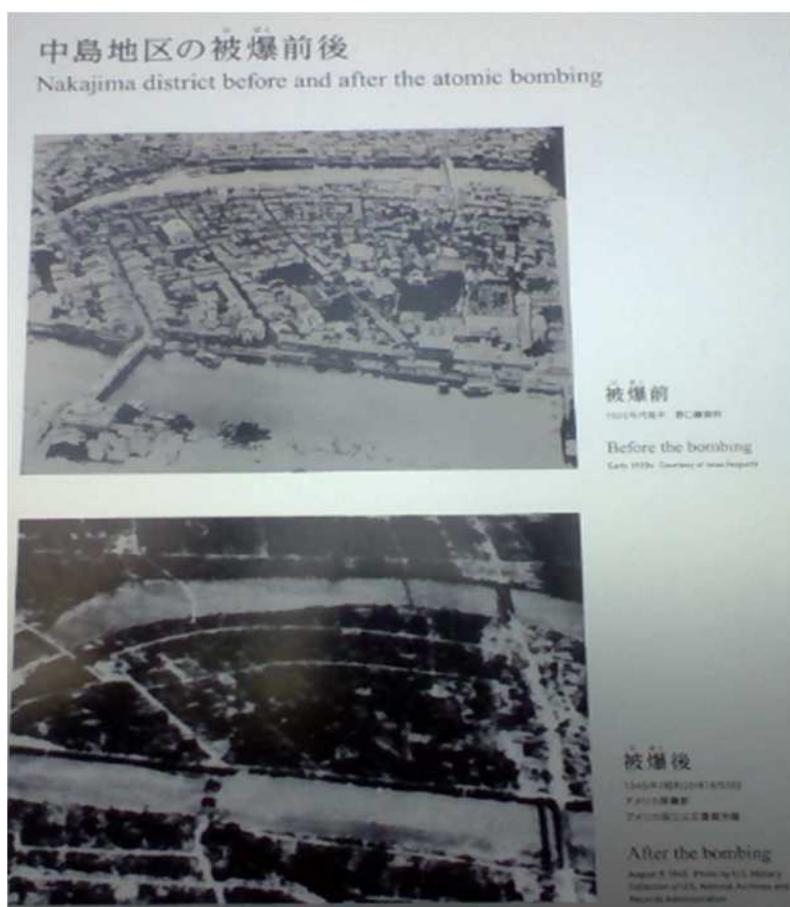
たずねびとに出てくるおばあさんが実際にいました。佐伯敏子さんと初めて知りました。「原爆供養塔納骨名簿」とは、名前が分かっているのに家族に遺骨が戻ってない人達の事です。まだ、814人もの人達が見つかっていません。終戦から78年たった今年になって1人の遺骨が家族のもとに戻ったと聞き、とても嬉しく思いました。

平和記念資料館では、広島原爆リトルボーイを見て小さいのに一瞬でたくさんの物がなくなってしまう威力に驚きました。爆心地から半径5kmを焼きつくしました。パノラマ写真ではまるで原爆後の中にいる感じがしました。ボロボロの自転車や黒く焦げた半袖や服。中身が真っ黒になったお弁当箱。血だらけの人や包帯を巻いた人、亡くなった人の顔や名前が展示してありました。私には想像できないほどの苦しみや悲しさが伝わってきました。

おりづるタワーでは12階まで階段で登りましたが疲れませんでした。そこから原爆ドームが真下に見えます。原爆で頑丈な建物が半分になりガラスがなくレンガがたくさん落ちていました。78年たちますが建物が100年もつかわからないそうです。私は広島歴史がなくなるのが悲しいです。

おりづる広場では、つるを折って亡くなった人たちを思いました。平和を願って投函しました。おりづるタワーの帰りにミニつるをもらいました。私が選んだ鶴は、晴れ晴れとした青色です。手の指先に乗るぐらいの小ささです。平和になることを願って大切にしたいと思います。原爆は、一瞬で、すべての物がなくなりま

す。その恐ろしい原爆は、人々を苦しめるだけで世の中を平和にしません。二度と起こらないように世界に伝えていくことだと思います。広島平和学習に行ったことをお友達に詳しく伝えたいです。実際に見てリアルに体験できたことは一生忘れません。



<29番>

「この2日間で感じたこと」

山本 琉生 (小鈴谷小学校)

僕は平和学習に行き、色々学んできました。

広島市は、人が多く、外国人も多くいました。しかし、原爆が落とされて広島市の原爆ドームは半壊し、14万人の人が怪我をしたり、なくなったことがわかりました。なので、日本国はもう二度と戦争をしないという平和主義というものを作りました。

その前は戦争中に人々は伝染病に悩まされていました。伝染病を乗り越えながらも必死に生きていましたが、亡くなる人が続出しました。原爆を落とされ、背中や腕がすごく焼けたり、怪我をしたり、残酷な広島市でした。それで怪我や助けを求めている人たちが似島へ船で運ばれて、処置ができる病院のようなものが臨時で作られました。その中で処置をしたが、なくなった人たちは体を焼いて、似島の地の中に埋められました。埋められて戦争が終わった後、平成の頃に似島の地を掘ってみると、骨がものすごく出てきました。

今の広島市は、街が復旧し戻っていますが、原爆ドームだけは壊れたままになっています。落とされたときには気温が1,000度を超え、水がほしいので川に入ったところ、なくなった人達がいるとわかりました。広島市は平和な街だったのに、原爆を落とされて怪我をした人や、なくなった人が14万人いると考えると、悲しいです。原爆は、広島市に第二次世界大戦の末期である1945年にアメリカ合衆国に落とされました。その前にも日清戦争で勝利し、日露戦争でも勝利したあとに第二次世界大戦のときに原爆を落とされました。そう考えると日本は戦争が多いと僕は思いました。

今も続いているロシアのウクライナ侵攻もどんどんウクライナに爆発物を投げ込み、領土を増やそうとしています。

世界で戦争が終わり平和になると、広島にある手型の火が燃えているものが消えます。僕は世界でいつ戦争が終わるのだろうと心のなかで思っていますが、早く戦争が終わってほしいと思っています。

広島には「安らかに眠ってください。過ちは繰り返しませぬから。」と文字が書かれています。過ちが繰り返されない国造りをしたいです。

<30番>

「広島に投下された原爆が世界に教えてくれたこと」

澤田 空舞（小鈴谷小学校）

1. 原子爆弾についてわかったこと

原子爆弾は、昭和20年(1945年)8月6日に落ちた。その原子爆弾の名前はリトルボーイ。

亡くなった人は、推定約14万人。原子爆弾投下時広島にいた人は、推定約35万人。8月6日はいい天気だった。だが原子爆弾が落ちたら天気が急に悪くなり黒い雨が降り始めた。原子爆弾が爆発したときは太陽みたいで、爆発したときの温度は約6,000度。地面の温度は約3,000度以上。鉄が溶ける温度は約1,500度らしく、地面の温度は鉄が溶ける温度の約二倍。こう考えると原子爆弾爆発直後は、すごく熱かったことがわかる。

そうした中、原子爆弾での負傷者は行列になって比治山からゆっくりと降りてくる。足を負傷した人は、手などを使って一生懸命に降りてくる。そして、火傷や負傷したところに時間が経つとウジ虫が湧く。その他にもケロイドという病気になった人がたくさんいる。ケロイドとは、皮膚に傷がついた後にミミズ腫れのように皮膚が赤い盛り上がりになること。

そして、一番酷かったのは、原子爆弾は心まで、狂わせてしまうこと。心が狂うと今で言ううつ病や不安障害になる。

そして、亡くなった人は、原爆死没者名簿に氏名が記入される。だが、亡くなった人の氏名がわかるとは限らない。氏名がわかっている場合でも家族がわからない場合は原爆供養塔納骨名簿に氏名が記入され家族が探される。原爆供養塔納骨名簿は全国にある。ただし、原爆供養塔納骨名簿に書いてある氏名が合っているかすらわからない。

2. まとめ

初めて原子爆弾について関わって思ったことは、原子爆弾というのは、僕にはただの人を苦しめるだけのものにしか見えない。

その理由は、広島に原子爆弾が落ちて沢山の人々が苦しみ沢山の人々がなくなり、人々が悲しむようなことしか原子爆弾にはできないから。核兵器だって同じだ

と思う。核兵器も人々が苦しむようなことしかできず、人々を悲しませるから。なのに人は、原子爆弾や核兵器を使う。

講話の最後に聞いた「戦争と平和について学び、考え、それぞれの立場で自分にできる事から始めましょう」という言葉は、すごく大切な言葉だと思う。このようなことを学びもっと戦争、平和について学び、この考えをもっと深掘りできるようになりたいと思う。平和学習は、いい勉強だったと思います。

<31番>

「自分にできることは」

森下 拓海 (小鈴谷小学校)

広島には各国の大統領などが訪れます。それほど大切なことが起きた広島というところはどのようなところなのか、そして何が起きたのかを知るために「広島平和学習」に参加しました。

この「広島平和学習」の二日間でたくさんのことを学びました。当時の広島の人口は約35万人。そのうち原爆で亡くなったのは約14万人。14万人の命を奪ったのはアメリカ。なぜ広島がアメリカに狙われたのか、それは広島がとても栄えていて、日本が外国に兵隊を送るときにとっても重要な役割を果たしていたからです。その重要な役割を果たしていたのが広島の大島です。大島は日本から外国に兵隊を送るだけでなく、戦争で病院が足りなくなったときの臨時野戦病院としても使われていました。

そして、この原爆を表す象徴とも言うて良い原爆ドーム。原爆ドームは、世界の新しいものを売る百貨店のようなところでした。原爆ドームはレンガでできていたため原型は残っているものの、レンガや骨組みがむき出しになっているため、原爆の凄まじさがよく伝わります。一時期は原爆ドームを壊そうということになったこともありました、「原爆ドームは壊してはいけない。壊してしまったら原爆を表すものがなくなってしまふ。」そのような意見があったため、今も残っています。

原爆ドームと同じぐらい原爆の凄まじさを教えてくれたのが平和記念資料館。平和記念資料館にはあの日、何が起きたのか、どうして起きたのか、広島は怎么样了かなどが詳しく書かれています。原爆ドームも同じですけど、実物を見たり現実を知ることやはり大切だと思いました。



僕は「広島平和学習」でこう学びました。戦争のない平和な世界を築くには、戦争と平和について学び、考え、それぞれの立場で自分にできることから始めることが大切。

こう学んだことで僕は思いました。やはり、戦争について考え、自分にできることから始めることを一人一人がやることが大切だと思いました。

派遣事業に参加した児童の平和への想いは
伝わりましたでしょうか。

みなさんにとって
「平和」とは何ですか？



令和5年度
常滑市広島平和学習派遣事業報告書

発行日 : 令和5年12月
編集・発行 : 常滑市教育委員会